

より良いまちを目指して意見交換

市自治会連合会による市政懇談会



つがる市自治会連合会（林嗣郎会長）は11月8日、生涯学習交流センター「松の館」で市政懇談会を開催し、自治会長ら55人が福島市長や市職員と協働のまちづくりに向けて意見を交換しました。

始めに林会長が「市政懇談会も3回目を迎えました。『より良いまちを創りたい』という思いは、市も自治会も同じであり、建設的な意見を交わしましょう」とあいさつ。特別テーマとして、福島市長がつがる市民診療所の建設計画について説明しました。その後、自治会等が日頃抱えている課題や要望など3つのテーマを中心に福島市長、各部長らと話し合い、地域課題やまちづくりにおけるそれぞれの役割について理解を深めました。



あいさつを述べる林会長

市の道路施策（流雪溝）について

林自治会 会長 竹内 雅彦 氏



高齢者の一人暮らしが多くなり、家庭から出た雪の処理に困っています。流雪溝を設置できないものでしょうか。

（福島市長）

平成22年度、23年度と2年続けて豪雪に見舞われ、雪対策には大変苦慮しているところであり、各自治会・町内会からの流雪溝の整備要望も増えてきております。

冬期間の交通確保のため道路除雪をするわけですが、路肩部に堆積している雪は車両から視界を妨げ、歩行者にとっても車道を歩かざるを得ない等危険となっていることから、流雪溝の必要性は十分理解しております。しかし、未だ道路の側溝が整備されていない地域が多いこと

から、現状では道路側溝の整備を中心とした事業が実施され、流雪溝の設置はなかなか実施できない状況にあります。住宅の密集している地域や学校周辺の通学路では大変ご不便をかけていると思いますが、歩道および車道の排雪作業を重点的にを行い、市民の生命と生活を守るための除排雪体制を強化していきたいと考えておりますので、ご理解のほどお願い致します。





日頃抱えている課題などについて話し合われた市政懇談会



自治会からの要望に回答する福島市長

空き家対策について

床舞自治会 会長 佐藤慶五氏



あつて、空き家軒数は、増加傾向にあります。

本来、空き家等は、市の管理権限が及ばない財産であり、民法上の管理者は、所有者などであつて、万が一他人に損害を与えた時は、その管理者が賠償する責任を負うことになっております。

最近、空き家や廃屋建築物が目立つようになりました。各自治会にとつては、頭の痛い問題であり、市としての対応も必要ではないでしょうか。

(福島市長)

空き家等に係る問題は、人口の減少、景気低迷や高齢者世帯の持ち家居住率が高いことなど社会情勢に伴い全国的な行政問題となつており、対策を講じるための条例の制定などを行っている自治体が見受けられるようになってきております。

つがる市における空き家軒数については、平成21年度の調査によると326軒確認されており、市内の木造住宅の約2.6%を占めております。その後も市民の方からの情報提供なども

しかし、空き家等に係る問題は、管理者等が不明の場合や死亡されて相続人の不確定の場合、管理者に積極的な管理の意思がない場合など、近隣の住民が対応に苦慮する事案が多いところ

です。そのため市としては、家屋が倒れかかっている、また、屋根のトタンが飛散する恐れがあるなど危険性が高い事案については、市民の生命、財産を保護する立場から何らかの関与をすべき時期にきているところであると認識しております。

このようなことから、今後、職員で構成する「空き家等対策検討委員会」を立ち上げ、個別の対応策等について検討していきたいと考えております。

カラスの駆除について

柴田町内会 会長 工藤寛樹氏



大変憂慮しております。

市としてもカラスの個体数を減らすため、猟友会の協力を得て銃器による駆除を毎年行つております。銃器による駆除のため、使用する場所の制限があり大量駆除というわけにはいきませんが、平成21年度は、173羽、平成22年度191羽、平成23年度157羽の駆除を行つております。

近年、カラスの数が大変増えたように思います。市街地の電線の下には、大量の糞が散らばり、水道水で掃除をしている人もいます。また、スイカやメロン、トマトなどの農作物にもいたずらをします。秋には、畦畔に垂れ下がっている稲穂なども食いちぎつています。

他市町村でもいろいろ駆除の取り組みを行っているようですが、その成果についてはあまり聞かれません。厄介な存在になりつつあるカラスの駆除についてご検討をお願いいたします。

(福島市長)

市街地の電線に止まったカラスの糞害やスイカ、メロン等への農作物被害には、市としても

今後も猟友会や関係部署の協力を得ながら、カラスの駆除を積極的に実施していきたいと考えております。

